

静商硬式野球部の 飛躍・進化への期待

静岡県立静岡商業高等学校
校長 吉原 隆



昨年度からの継続で125年目を迎えた静商第32代校長の吉原です。日頃から静商硬式野球部後援会の皆様の物心両面からの絶大なる御支援と御協力に心から感謝申し上げます。

さて、2023年度シーズンにおいて、夏の選手権大会では、シード校を苦しめながらも惜敗したものの、伝統校としてのプライドを武器に、静商らしさを県内外の高校野球ファンに示していただきました。今後は3年生には、誇り高き静商硬式野球部出身者として、諸先輩方を人生の目標にし、進路に向けて頑張ってくれるものと期待しています。また、2年生・1年生の新チームは秋季大会で期待が高まる中、結果を残すことが出来ませんでした。静岡市内大会において決勝まで勝ち進み、静岡に互角の戦いを演じ、チームカラーを監督や選手、チーム関係者が一丸となって表現してくれました。オフシーズンに入っていきますが、選手は直向きな練習に励み、皆様の期待に応えてくれるものと信じております。静商硬式野球部創部100年を控え、諸先輩方が築いて来られた輝かしい歴史と伝統は、品位高いプライドを原点に、今の生徒諸君にも継承して欲しいと願っています。これから輝かしい未来に向け、静商硬式野球部の飛躍・更なる進化を見守っていただきますようお願い申し上げます。最後に、静商硬式野球部後援会のみならずの御発展を祈念し、挨拶とさせていただきます。

今シーズンを振り返って

静岡商業硬式野球部

副部長 原田 貴弘

日頃より、静岡商業硬式野球部への多大なるご支援、ご声援誠にありがとうございます。

今年の4月より副部長として静岡商業硬式野球部に携わることになりました原田貴弘です。私にとって静岡商業は最も身近な学校であり、地元の学校でもあります。幼いころから選手たちがグラウンドを走り回っている姿をよく見てきました。このような学校で野球に携わらせていただいたことにとても感謝しています。

着任早々、春季中部地区予選において静商らしい粘り強さを目の当たりにしました。3点差のビハインドで迎えた9回裏、静商は驚異の粘りを見せ、2ランホームランで1点差に追いつくとさらに相手のミスにも

静商硬式野球部黎明期

静岡県立静岡商業高等学校

第79回卒三宅 司

後に甲子園の常連となり、静商の名を全国に知らしめる硬式野球部が産声を上げたのは昭和3年。前年に「武道以外の部活は認めない石神伝左衛門校長」の後任としてスポーツに熱心な金井浩第五代校長が就任し、静中（現静岡高）野球部出身で、当時着任したばかりだった加藤正二教諭に野球部をつくるよう指示した。

選手は主に二、三年生から集められ、早稲田大野球部の捕手として活躍していた伊丹安広をコーチに招いた。スパルタ式の指導で、選手たちはバットで尻をたたかれながら練習したという。三年の県大会では初戦で敗れたが、四年は沼津中（現沼津東高）に大勝して公式戦初勝利を挙げた。

創部メンバーの中に厚生省などを経て日本世論調査研究所理事長に就任した家田光雄（昭5卒）がいる。一塁手だった家田は「当時、殴られるのが当たり前で合宿は特に厳しかった。素人集団だったが、短期間に上達して常勝静中ともいい試合ができた」と振り返る。

家田らが卒業した直後の昭和5年5月29日、静岡野球史に残る天覧試合が静中との間で行われた。選手たちは真新しいユニホームで部長の加藤教諭らはモーニング姿。会場の静中グラウンドは異様な緊張感に包まれた。

乗じてさらに2点追加し見事サヨナラ勝ちを収めたのです。最後まで決して諦めない静岡野球を直に感じた試合でもありました。しかし、その後の県大会では初戦で敗退してしまい、ノーシードから臨んだ夏の選手権大会でも3回戦で第1シードとの対戦となり、善戦はしたものの敗退し結果はベスト32止まりでした。そして、ここから新チームが始動し、東海大会を目標に迎えた秋季中部地区予選ではまさかの初戦敗退で県大会にすら出場することができませんでした。春季県大会からなかなか自分たちの持ち味を発揮することができず選手たちは

苦しんできました。現在はこの悔しさを決して忘れないためにチームスローガン「粘り強さ」を掲げ、通常の練習に加え、筋トレや食事、学校生活等、様々なことに取り組んで来年に向けて精進しているところです。最近私学が県上位を独占するようになり公立の学校が勝ち進むのが難しくなっている状況です。しかし、この現状を打ち破り、聖地甲子園への出場に向けて、曲田監督や外山部長、選手らとともにチーム一丸となって尽力していきたいと思います。

今後とも変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い致します。

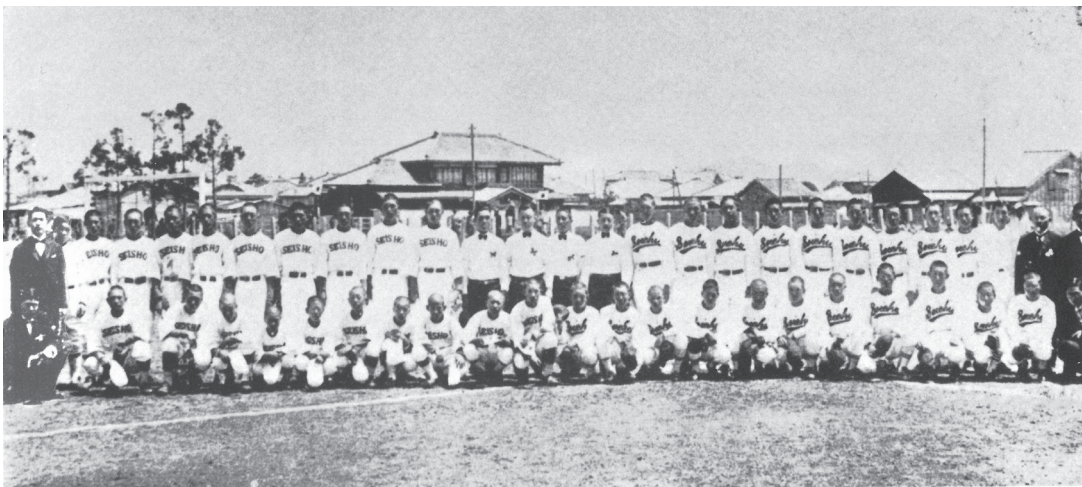
と光ったのを覚えている」と話す。

岩崎の同期で、5、6年ごろエースで四番だったのが森谷良平（昭7卒）。森谷は法政大を経て静岡出身のプロ選手第一号となり、松竹ロビンス、国鉄スワローズ（現ヤクルト）でプレーした。アマチュア野球の名審判となり、軟式野球の振興に尽力した稲森諒一（昭7卒）は当時の外野手だ。

試合はわずか二回、九分間で終了し、引き分けに終わったが、これをきっかけに翌年から天覧記念試合が始まり、今も定期戦として受け継がれている。

静商の甲子園デビューは創部七年目、9年春の選抜大会。この時は初戦で敗れたものの、11年には山静大会決勝で宿敵・島田商を倒して念願の夏の大会出場を果たした。長野商と当たった緒戦は27点をもぎ取り、大会新記録を打ち立てて初陣を飾った。

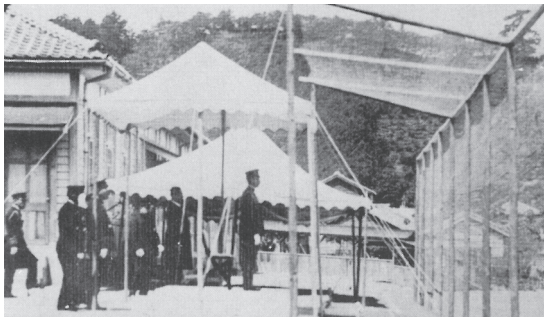
このように創部わずか7年で甲子園に初



天覧試合に出場した静商(左側)、静中のメンバーと両校関係者

卒業後、満州製鉄などで活躍した岩崎茂（昭7卒）は三塁手で天皇陛下に最も近い位置でプレーした。「当時の中学生には本当に名譽なことであった。陛下の前に行ってはいかんと言われていたが、ファウルを追って思わず飛び出した瞬間、陛下のサールが日の光できらり

天覧風景



天覧風景

出場をし、その2年後には最多得点記録を作るようなチームになっていたのです。（失礼ながら敬称は略させていただきます）

新チームの一言

〔2年生の一言〕

石間千翔
片山大生
北嶋文翔
栗田輝空
齊藤修生
澤崎怜央
杉山寿明
鈴木伊織
鈴木駿太
竹澤新
高田陸杜
中島健太
鷲巢巧
増田莉夢

全ての事に全力で取り組み静岡県No.1投手になる静岡を代表するような勝負強いバッターになる周囲の人に信頼され、応援してもらえる選手になる粘り強く、どんな時もどんな形であれチームを勝利に導くチームを勝たせることができるキャプテンになる守備でチームを勢いづけられるような選手になるまっすぐ自分の言葉は曲げないそれが俺の野球道チームメイトからの信頼が厚く、チャンスで打てる選手になる夏の大会で、背番号1をつけて甲子園に出場するどんな時でもチームの期待に応えられる選手になるチームのみんなから信頼されるような選手になるホームランをたくさん打って勝ちに繋げるバッティングをするチームから信頼され、勝つために必要な選手になりたい頼り頼られる人になり臨機応変に対応できる力を身につける

〔1年生の一言〕

秋田蓮至
秋山晴亮

堅実な守備でチームを救い、チャンスで打てる選手長所であるスピードを生かし、走攻守でチームの勝利に貢献する

岩岡坂杉杉鈴戸鳥長成野堀宮山山山横河八
田谷上山山木田羽島岡原内腰崎野本山村木
晴蓮拓大怜海来咲拓翔秀綜龍功仁敢蓮和
臣汰海悟矢翔希跳翔太郎太馬太郎綺生蓮奈

守備の良さを生かしてショートのリギュラーとして勝利に貢献する体重と筋力を増やして打撃力を上げて攻撃的な野球をする選手チームにとってプラスな声をだし続け打撃でチームに貢献する強肩を持ち味としチームを動かす選手となってリギュラーを勝ち取る堅実な守備でエラーをなくし、打撃では中距離バッターを目指す足を活かしたプレーをし、チームで一番守備が上手い選手になる長所の守備を生かし守備範囲でのエラーをゼロにしチームに貢献する自分の持ち味である小技プレーを発揮し、勝利に貢献しますバッティングや守備では常に自分のプレーをすることを心掛ける頭を使った守備や力強い打撃でチームに勢いをつけられる選手になるどんな場面でも安心して投げている選手になりチームに貢献するバッティング力を向上させ、チームに必要とされる選手になる夏の大会で四番打者として出場し、勝利に貢献するエース取って絶対甲子園に行けるようにながらびます守備とバッティングを両立させチームに貢献する自分らしさを前面に出してエースで4番になる自分の長所を最大限にいかし、チームの火薬になるやるべき事を確実にやり、自信を持って行動できる人間になるいてくれて良かったと思われるよう周りの人のために動く